● 俵詰め ●

〔俵（藁を円柱形に編んで作られた袋。おもに農閑期に作っていた）に玄米をいれ、縄をかける作業。〕

■漏斗

下の口が小さく、上の口が朝顔状に大きく開いたもので、穀類を俵や袋に入れるための道具。
少量の穀類や酒、油などの液体を、壺や徳利あるいはビンなどに移しいれるのに使うものもあった。

■枡

米などの穀物の量を量る計量容器。おもに尺貫法の単位である「合」「升」「斗」を図るために利用される。米を漏斗から俵に入れる作業をするとき、漏斗の口に米を流すときにも使われていた。

■竿秤

重量を計るメモリをつけた竿。米の重さを計ることにも使用していた。竿につけた取手の紐を支点とし、先端に計量するものを、他の側に錘の分銅をつりさげ、鐘を移動させて水平を保つ位置のメモリを読む。